

戸倉ハルとダンス  
—昭和戦前期のダンス研究に着目して—  
Haru Tokura and dance :  
From 1922 to 1941

村山茂代  
MURAYAMA Shigeyo

**Abstract**

Haru Tokura (1896-1968) published her first dance book, “Shouka Yuugi” (Dance for Children) in 1927. After publishing “Shouka Yuugi”, she studied dance with Goro Tsuchikawa (1871-1947) and also joined a gymnastic dance research group. She choreographed many dance pieces which well coordinated movement, music, and lyrics very well.

In 1936, she was a member of the committee in the Ministry of Education which made the official teaching guidelines for physical education. At that time there were many contradicting opinions about teaching dance, however she made organized teaching guidelines, and used her own dance pieces as required teaching material in physical education classes. After that her dance pieces became well-known in Japan.

Before long, the Ministry of Education needed to make new teaching guidelines for physical education which would be suitable in war time. Some of the members of the committee were against teaching dance at that time. They thought that dance was inappropriate and a less active form of exercise. Tokura strongly appealed and emphasized the need to teach dance in order for students to express their feelings, and was nearly in tears at the meeting. As a result, a small part of the dance teaching curriculum remained in war time.

In Tokura’s way of teaching dance was different from her first dance teacher, Tokuyo Nikaidou. It is certain that Tokura built her own concept of dance.

**Keywords :** “Shouka Yuugi”, Gymnastic Dance, Official Teaching Guideline in Physical Education (1936), Tairenka.

I. はじめに

戸倉ハル (1896-1968) (図1) が突然体調をくずして旅立ってから半世紀を過ぎた今でも、ハル振付のダンスはどこかで踊られ、またハルから直接指導を受けた弟子たちによってハルのダンス講習会が開催されている。それは弟子たちの師への追慕や尊敬の念からであろう。彼女たちのほとんどがハルは二階堂トクヨ (1880-1941, 日本女子体育大学創設者) の片腕として日本女子体育専門学校 (体専) 時代からダンスを教えていたと信じている。ところが、本稿で明らかにするように、ハルが非常勤でダンスを教えるようになったのはトクヨの死後からである。そして、1962年お茶の水女子大学定年退職後に日本女子体育短期大学の教授として迎えられた。その時は、ダンスの指導者として

国内外に認められていた。



(図1) 若いころの戸倉ハル

1915年ハルは香川県立丸亀高等女学校を卒業し、家事科（家庭科）の教師になる希望で東京女子高等師範学校附設第六臨時教員養成所（臨教）家事科第一部<sup>1)</sup>に入学した。1918年に卒業して高知師範学校の辞令を受けて高知に着任してから担当学科が家事科ではなく体操科であると聞いて驚いたという<sup>14)</sup>。予想もしていなかった体操科を教えることになって苦労が多かったことと思うが、4年後には再び上京して東京女子高等師範学校（女高師）研究科で学んだ。

本稿ではハルが再び上京した1922年から、ダンス（遊戯）研究の第一人者として認められて、第二次改正學校體操教授要目（昭和11年6月3日）や國民學校體鍊科教授要項（昭和17年9月29日）、師範學校體鍊科教授要目（昭和18年4月1日）、及び中等學校體鍊科教授要目（昭和19年3月1日）の成立に委員としてかかわったところまでを研究の範囲とし、その間にハルはどのようにダンス研究に取り組み、ダンスについて自身の考えを構築して要目の成立にかかわっていったかを、最初に明らかにする。次に、ハルのダンス観とトクヨのダンス観の相違について述べ、昭和戦前期におけるダンス研究のパイオニア二人の関りを史的資料と、これまでの研究をまじえて明らかにする。

先行研究として安藤ほか（1975）<sup>1)</sup>、桐生（1981）<sup>4)</sup>、松本（1999）<sup>9)</sup>、名須川（2004）<sup>23)</sup>、などがある。これらの研究は、ハルのダンス観の形成や業績などを一定程度明らかにしており、本稿もその知見を参考にしている。しかし、これらの諸研究には、ハルが1926年（大正15年）ごろから体専で非常勤講師をしていると記述しているなど、戸倉ハル研究が十分に進んでいるとはまだ言い難い状況である。

本稿では日本女子体育大学所蔵史料実証や、卒業生への聞き取りなどの手法を用い、ハルのダンス観形成についての歴史的事実の確定を重視していく。本稿の作業は、日本におけるダンス史研究の一助になると考える。

研究資料として、戸倉の著作（1927）唱歌遊戯、目黒書店、東京。及び（1931）學校ダンス、同文書院、東京。その他、体育や幼児教育関係の研究会誌を用いる。

## II. ダンス観の構築と専門家との交流

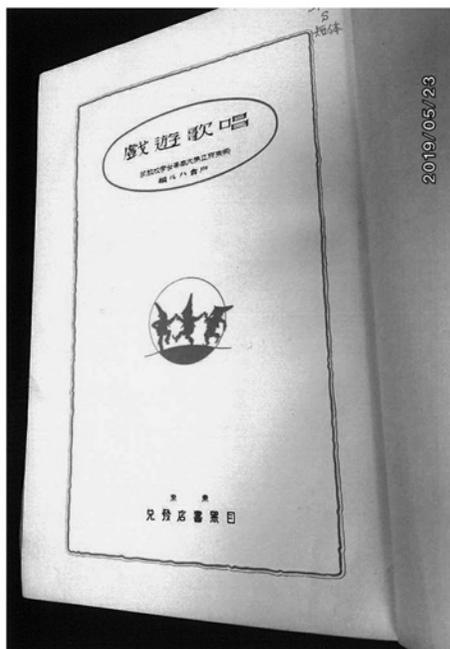
### 1. ダンス研究

ハルが女高師研究科に入学したとき、臨教時代に指

導を受けたトクヨは、体操塾創設のため1922年3月31日に女高師を退官しており、また永井道明（1869-1950）も1923年には本郷中学校初代副校長就任のため女高師を退職するなど、教授陣が安定していない時代であった。高橋キャウ（1892-1980）が在任していたがハルの指導に当たったかは不明である。ハルは子どもの遊戯を卒論のテーマ<sup>3)</sup>として研究に集中し、1924年研究科を修了して東京府立第六高等女学校（現・東京都立三田高等学校）に就職した。

その後も遊戯研究を重ね、子どもの遊戯や小学校児童又は女学校生徒用の遊戯を創作して講習会で発表した。そして、これまでの遊戯研究を総括して最初の著書『唱歌遊戯』（図2）を永井の序によって出版した。

『唱歌遊戯』には、14種の遊戯と伴奏音楽の楽譜も掲載している。最初の作品は「人形」と題する遊戯で、遊戯の動作の説明に写真も添えている。それによると、子どもが「わたしの人形はよい人形……」と、歌いながら上肢を動かし人形を抱える動作をする。また、「目はぱっちり」とでは、「目は」で左手を軽く握って目の前に取る。次に、「ぱっ」で、右手で同様の動作を、そして、「ちりと」で両手をパッと開く、と言うように歌詞に拘り、日常的な動作による上肢だけの振付である。



（図2）『唱歌遊戯』  
戸倉ハルの最初の著書

この様に、当時歌詞を表現した遊戯は表情遊戯<sup>15)</sup>と呼ばれていた。伴奏音楽の楽譜を添えているが、音楽について全く触れていない。

当時、子どもの遊戯研究では第一人者と云われていた土川五郎(1871-1947)は、幼稚園で行っている表情遊戯に批判的であった。子どもたちが楽しくとり組んでいないのをみて改善を考えた。そこで土川は表情遊戯に伴奏の音楽に着目した律動遊戯の併用を考えた。それは、歌詞と共に伴奏音楽に表現されているリズムや音を子どもに感じさせ、子どもの足取りやふみ方などに、子ども本位の自然な動作によって、心身に「快感を得ると同時に體育的目的を達せしめ様として作られた<sup>22)</sup>」遊戯であった。

1916年頃から土川は遊戯について小論や新作の遊戯を「婦人と子ども」に発表している。土川の遊戯は「単純簡潔で、さらに自然で無理がなく、明るい清純な品位が全体に流れていた<sup>6)</sup>」という。

ハルは土川と遊戯研究で長年の交流があった<sup>5)</sup>と言われているが、『唱歌遊戯』出版後に土川から遊戯の伴奏音楽について何らかの示唆を得たのかもしれない。遊戯の曲は「童謡の曲を聴いてみるうちに獨りで子供が歌いだし、また、踊り出すやうでなければなりません<sup>21)</sup>」と子どもの感性にたつての選曲を述べている。後年、ハルは伴奏音楽と歌詞を表現した動きとが混ざり合い、溶け合い、そして、踊るものも、観るものも感動を共有するような作品、例えば、戦前では「海ゆかば」「荒城の月」「みのり」などのような作品を多数創作したが、それらの作品の原点は、土川の影響による唱歌遊戯の研究にあったと考えられる。

ハルの次の著作は『學校ダンス』である。ここでは子どもを中心に考えた教材や指導法について述べ、ダンスの歩法指導にも言及しているのは、当時注目されていた「体育ダンス」(Gymnastic Dance)の影響がみられる。

体育ダンスは1918年末頃から京都・東京・横浜のYMCAでアメリカ人ライアの講習会で始まった<sup>16)</sup>。体育ダンスはアメリカでバレエ教師が創案<sup>17)</sup>し、YMCAの体育指導者の手を経て、内容や指導法が整えられたと考えられる。フォークダンスで使用されるスキップ、ホップ、ギャロップなどのステップを基本歩法とし、よい姿勢を作るために、バレエの腕・足のポジションを採用して基本歩法と組み合わせた練習法を考案し、更に多数のフォークダンスを導入して、体育的效果を考えた指導法であった。ライアの講習会

受講者による著書が多数出版されている。ハルも体育ダンス研究会に入って自身の指導法を確立していき、それはハルが要目の改正にかかわったとき、大いに生かされていった。

## 2. 學校體操教授要目の改正にかかわって

1933年ハルは女高師に助教として迎えられ、新しい指導の場で遊戯研究を深めていくこととなった。女高師では三浦ヒロ(1898-1992)が体操科を教えていた。

文部省では要目の改正時期とみて準備を進めていた。要目改正の準備委員会で三浦は、行進遊戯とか唱歌遊戯などという名称をやめてダンスと言う名称の採用を要望した。委員たちはこの意見を認めたという<sup>25)</sup>。しかし、三浦は1935年春、同僚の宮田覺造との確執から女高師を去ったのでハルは唯一人の女性委員として唱歌遊戯および行進遊戯を担当することになった。

当時の舞踊界では新進気鋭の舞踊家 邦 正美(1908-2007)が1933年1月8日に第一回無音楽舞踊発表会を日本青年会館で開いたのを始めに、次々と前衛的な作品を発表した。また、論文も発表して注目された。邦は「舞踊を定義づければそれは我々の思想、感情を人間の肉體の律動的又は情緒的な運動に依って表現するところの藝術である<sup>7)</sup>」と舞踊の本質を明らかにし、更に、「一般に考えられてゐるところのタンゴやワルツ、ヴォドビルでのダンスや女學校で教へる體育ダンスといふが如きものとは全く別なものである<sup>8)</sup>」と、唱歌遊戯や行進遊戯を舞踊と認めていない。

一方体育界では、昭和初年頃から体育ダンス研究家や児童舞踊家たちが主催する講習会が盛んに開催されるようになって、多数の体育教師たちがこれに参加した。芸術舞踊家たちは運動会用または学芸会用の作品を振り付けて講習会で教えた。体育教師たちは目新しい作品を求めて講習会に参加した。その結果、學校體操教授要目に教材として示されている作品とは異質な作品が學校に流入した。

要目改正の委員会では様々な意見があつて混乱した。三浦はダンスを教える教師の立場からこのような混乱をまねいたのは「現在の體育上に行われてゐるダンスといふものが、本當に權威ある體育材料である事を十分に立證する様なものになって居ないその事が原因<sup>11)</sup>」となっていること。また、ダンスの指導者は「大抵は運動會前の短期間だけの、仕事になって了つて<sup>12)</sup>」いて、しかも「毎年毎年新しい材料を教えようとする。全く教育を考へての指導では無くて、運動會を立派に

する為の指導になって了ってゐる<sup>13)</sup>と、ダンス教材と指導法の点に問題や過誤があることを指摘している。

様々な意見や批判が錯綜するなかで、ハルは要目の改正委員として、今後の学校におけるダンスについて考えねばならなかった。まず、邦を訪ねて意見を交換したという<sup>20)</sup>。邦の意見を全面的に受容することは、学校教師たちの意識や能力から考えて非現実的であったであろう。ハルは「大體前要目の生かせる部分は成るべく生かし、更に過去十ヶ年内に於ける實施の状況と教育界殊に體育現時の狀勢とに鑑みて立案した<sup>20)</sup>」と述べている。

1936年6月3日第二次改正學校體操教授要目は発布となった。要目では、ダンスは「唱歌遊戯及行進遊戯」にまとめられた。そして、その目的を「唱歌遊戯及行進遊戯は音樂の伴ふ全身の動作にして身體の發育と健康を助長し容姿を端正にし動作を優美ならしめ兼ねて快活温雅なる精神を養ひ以て心身の調和的發達を計るを以て目的とす」と明確にしている。

新要目の「唱歌遊戯及行進遊戯」の内容は一段と充実した。前要目（表1）では「歩法演習」とあって、その内容を示していなかったが、新要目（表2）（表3）では「基本練習」を設け、その内容として「基本歩法」

<表1> 改正學校體操教授要目

高等女學校及女子ノ実業學校（各學年ニ於ケル配當ハ新ニ教授スヘキ事項ノミ掲ケタリ）

學年		第1學年	第2學年	第3學年	第4・5學年
遊	行	歩法演習 セヴンジャムプス	プロネード マウンテンマーチ	スケーティング クワドリル	ポルカセリアス ミニユエット
戲	進				
	遊				
	戲				

<表2> 第2次改正學校體操教授要目

第一表 小 学 校 △印ハ女子ノミノ教材ナリ

		尋常小學校			高等小學校
		第1・2學年	第3・4學年	第5・6學年	第1・2・3學年
唱歌遊戯 及 行進遊戯	基本練習	基本歩法 ウォーキングステップ ランニングステップ スキッピングステップ ギャロッピングステップ ホッピングステップ	△基本歩法 ツーステップ ポルカステップ スライドステップ ワルツステップ マヅルカステップ △基本態勢	△基本歩法 スケーティングステップ シャットイツシュステップ フォローステップ ヒールエンドトウ ポルカステップ バランスステップ レドアポルカステップ △應用態勢	△基本歩法 バスクステップ ミニユエットステップ
	唱歌遊戯	日の丸の旗 鳩 兵隊さん ヒカウキ 案山子 蝶々 雪	△春が来た △ひばり △かぞへ歌 △汽車 △氷すべり △春の小川 △舟の旅	△水師營の會見 △海 △朧月夜 △故郷	△春風 △幼き頃の思出 △荒城の月
	行進遊戯	象 友さがし 縫ふてゆく かたつむり 私のまね シーソー	△ことろ △ご挨拶 △ひきくら △鬼ごつこ △かげぼうし △プレッキング	△ぶらんこ △仲よし △マウンテンマーチ △スケーティング △ブラックナッグ △クラップダンス	△リチカ △ヴァルソヴィエヌ △アイリッシュリルト △ヴィンヤード △ポルカセリーズ △ギャザリングピース コーツ

「基本態勢」「應用態勢」から基礎的な運動の指導を重視して技術の向上をめざした。また唱歌遊戯や行進遊戯の教材を全学年に配した。それ故、教材不足を理由に教師が民間主催の講習会に参加して教材を集める必要がなくなった。このことは、学校におけるダンスの

指導内容の統一化を可能にした。

要目に示された唱歌遊戯はほとんどが戸倉の作品である。また行進遊戯では井口阿くりがアメリカから持ち帰った「ファウスト」や「ポルカセリーズ」<sup>18)</sup>、トクヨがイギリスから持ち帰った「ギャザリングピース

<表 3>

第二表 高等女学校及女子ノ実業学校

		第1学年	第2・3学年	第4・5学年
唱歌遊戯 及 行進遊戯	基本練習	基本歩法 バスクステップ ミニユエットステップ 基本態勢 應用態勢		
	唱歌遊戯	春風 幼き頃の思出	胡蝶 荒城の月	菊 寧樂の都
	行進遊戯	リチカ アイリッシュリルト ツロイカ	スコッチキャップ ポルカセリーズ ウインヤード ギャザリングピースコート マヅルカ グリーティング	クワドリル カマリンスカイヤ ポピー ミニユエット ファウスト インザウェイヴス

<表 4> 中等學校體鍊科教授要目

中等學校（女子）

學年 類別	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
音 學 運 動	基本歩法 足尖歩 足尖走歩 一拍跳歩 片脚跳歩 追跳歩 交換歩 踏替跳歩 三拍歩 摺足歩 交叉跳歩  基本態勢 應用態勢 強歩 追風 旭日	基本歩法 足尖歩 足尖走歩 一拍跳歩 片脚跳歩 追跳歩 交換歩 踏替跳歩 三拍歩 摺足歩 交叉跳歩 振脚跳歩 追歩 滑跳歩 基本態勢 應用態勢 旭日 くろがねの力 勝鬨	基本歩法 足尖歩 足尖走歩 一拍跳歩 片脚跳歩 追跳歩 交換歩 踏替跳歩 三拍歩 摺足歩 交叉跳歩 振脚跳歩 追歩 滑跳歩 基本態勢 應用態勢 大日本の歌 軍艦行進曲 豊穰	基本歩法 足尖歩 足尖走歩 一拍跳歩 片脚跳歩 追跳歩 交換歩 踏替跳歩 三拍歩 摺足歩 交叉跳歩 振脚跳歩 追歩 滑跳歩 基本態勢 應用態勢 豊穰 愛國行進曲 こまの動き

表1, 2, 3, 4は井上一夫著『学校体育制度史 増補版』を参考にして作成

コーツ」,そして体育ダンス研究会から広まったフォークダンスが列挙されている。これらの作品は文部省による要目の伝達講習会によって全国に広まった。

二次改正の学校体操教授要目は長く継続することが出来なかった。日本は戦争の時代へと突入し、体操科は體鍊科と改称された。ハルは、国民学校體鍊科教授要項(昭和17年9月29日),師範学校體鍊科教授要目(昭和18年4月1日),中等学校體鍊科教授要目(昭和19年3月1日)の委員として要目作成にかかわった。

軍部の圧力が強力であった時代で、委員会ではダンス廃止論が強硬であった。ハルは「何度かなみだながらに若い学徒の成長発達の要素に、リズム、感情の育成の必要性を強調<sup>2)</sup>」したといわれている。

ハルの孤軍奮闘の末、遊戯は国民学校では「音楽遊戯」、中等学校では「音楽運動」という名称で残すことができた。これまでの「基本歩法」のステップ名はすべて漢字に書きかえられた。軍国の精神を高揚する歌曲を用いた遊戯を教材としたのであった(表4)。

以上に述べたように、ハルは第二次改正学校体操教授要目と、體鍊科教授要目の作成にかかわり、體鍊科教授要目では困難な時代にもかかわらず、ダンスは小学校では音楽遊戯、中等学校および師範学校では音楽運動として残すことができた。

### III. ハルとトクヨのダンス観の相違

トクヨはイギリスに留学(1912年11月20日横浜出港-1915年4月27日帰国)した時、Bergmann Österberg Physical Training College でダンスを学ぶほか、English Folk Dance Society でイギリスの民俗舞踊やフォークダンスを、またロンドン市内のバレエスクールでバレエの個人レッスンを受けた。その結果、ダンスが身体に及ぼす効果を実感した。「よき舞踏は体操科の一部として真に価値ある事をつくづく知り申候<sup>24)</sup>」と女子の体操科にとってダンスは重要な種目であることを認識し、未来への抱負を以て帰国した。

この時、トクヨの留学のために、文部省との折衝に手を尽くしてくれた大恩人であり、また女高師の上司でもある永井は、日本初の学校体操教授要目(1913年)の作成を果たし、その普及に心血を注いでいた。永井は本来ダンスの教育的価値を認めておらず、要目のダンスはトクヨにとって全く興味のないものであった。女高師の教授として着任したが、この要目に阻まれて理想とするダンス指導は、帰国して7年後の二階堂体

操塾の創立を待たねばならなかった。

1922年に創立した二階堂体操塾では欧米の女性と比較して劣っている日本女性の体格改善のためには、ダンスの指導が最も効果的であると考えて、トクヨはイギリスから持ち帰ったダンスを指導した。更に、芸術舞踊家の指導を導入した。このことから、トクヨのダンス観は、健康で均整のとれた身体に美しい所作を身に付けた女性の育成をめざしていたと考える<sup>19)</sup>。

ハルは土川の遊戯や体育ダンス研究会での影響を受けながら自身のダンスについての考え方を構築し、ダンスを創作してこれを教材として教えた。ハルのダンスは歌詞、動き、伴奏音楽が一体となるように考案され、ダンスによって感情の陶冶までも考えていた。

戦後、学校体育指導要綱(1947)の委員となった弟子の松本千代栄にハルは「私は二階堂先生に私淑した。しかし先生と同じには行わなかった。松本くんも自分の思うとおりにやれよ<sup>10)</sup>」と励ましている。

以上に述べたように、二人は師弟関係であるが、ダンスについては異にする考えである。即ち、ハルはトクヨのダンス観を継承していない。

### IV. 昭和戦前期における日本女子体育専門学校、トクヨとのかかわり

筆者がトクヨのダンスについて研究を始めるようになったのは、熊倉登美子(体専、1933年卒)との出会いからである。1988年2月初旬、臼田小夜子(体専、1935年卒)からの電話でニューヨークから再就職の面接のために駆け付けた筆者は、熊倉に会うのは初めてであった。熊倉が勤務している東京成徳短期大学に案内され理事長の面接を受けたが、幸運にも既に筆者の採用は決定していた。それは、退職するときは二階堂の後輩にこのポジションを譲りたいと思っていた熊倉の配慮からであった。

東京成徳短期大学に就任してから、熊倉から在学当時の体専、トクヨ、石井小浪、等の思い出話を聞く機会が多くあった。このことから、筆者はまず石井小浪について研究をはじめた。小浪の在任期間を調べるために日本女子体育大学図書館で1926年(大正15年)から1943年(昭和18年)頃までの教員の名簿(兼任教員昭和16年4月20日現在『青紙赤紙 教員調』学校法人二階堂学園所蔵。)を閲覧した。その中に戸倉ハルの名前がないのに気が着いた。

東京成徳短期大学退職後、2000年秋から後輩の推薦

で、二階堂学園の史料整理に携わるようになり、ハルの在任期間を示す史料を発見した。それによると、ハルは1928年（昭和3年）5月6日に採用され（兼任教員 昭和3年5月8日現在『青紙赤紙 教員調』学校法人二階堂学園所蔵。）、1929年（昭和4年）3月31日に解職（教員解職ニ關スル件 昭和6年5月15日現在『教員様式』学校法人二階堂学園所蔵。）となっている。

また、2000年の秋には白田から誘いがあって、トクヨ研究会を立ち上げた。会員は白田、吉田和子（体専、1941年卒）、森下千瑞（体専、1949年卒）、石井美晴（短大、1953年卒・体大、1968卒）、村山茂代（短大、1953年卒）の5名であった。松徳会館に宿泊して研究会を数回重ねた。その時、先輩たちからトクヨについて、また体専時代のダンスについて話を聞く機会が多くあった。白田からは、芸術舞踊家の高田せい子と石井小浪が教えていたこと、体講などの時にトクヨがダンスを教えたことなどについて話を聞いた。また、吉田からは高田せい子、石井小浪、バレリーナの貝谷八百子、天野ちょうのほか多数の先生が指導していたこと。戸倉ハルは女高師の先生だったこと。そして、吉田は更に「せい子先生はバレエテクニックの指導に徹し、小浪先生は「兎のダンス」など、ご自分の作品を多数教えてくれた。私は陸上競技の選手だったが、卒業後ダンスの指導で困ることは全くなかった。体専のダンスが一番だった。」と、語った<sup>2)</sup>。

以上に述べたように、昭和戦前期の体専では芸術舞踊家を起用し、他校に類のない、新しいダンス指導が行われていた。その指導陣にハルは加わっていなかった。

## V. 終わりに

ハルは土川五郎や体育ダンス研究会での影響を受けながら、恩師トクヨとは異にする自身のダンス観を構築し、多数の唱歌遊戯を創作して指導した。これらの作品は歌曲、歌詞とダンスの動きが一体となるように創られた。ハルが體鍊科教授要目作成の委員会において涙して訴えたように、ダンス指導の目標に豊かな感性の育成も考えていた。

## 謝 辞

本研究のために日本女子体育大学附属図書館より研究資料収集のご協力を頂いたことを心より感謝申し上げます。

## 注

- (1) 臨時教員養成所は当面の教員不足を補う目的のために設けられ、第六時教員養成所の家事科は1909年3月31日に設置されている。その後1914年7月に家事科は第一部と第二部に分けられ、更に1918年は、第一部と第二部を改めて家事裁縫科（修業年限3年）と体操家事科（修業年限2年）となった。
- (2) トクヨ研究の成果については、白田小夜子他（2003）二階堂トクヨ—現代に生きる「すてきな女性」—、不味堂出版、東京、を参照されたい。

## 引用文献

- 1) 安藤幸ほか（1975）日本女子体育連盟二十年の歩み、大修館書店、東京。
- 2) 岩野次郎（1968）戸倉ハル先生の御冥福を祈って、女子体育 10(1)：6。
- 3) 木下ツナ（1968）故戸倉ハル先生を偲びて、女子体育 10(1)：55。
- 4) 桐生敬子（1981）学校ダンスの普及者 戸倉ハル：近代日本女性体育史、p.239-262、日本体育社、東京。
- 5) 同上 p.249-250。
- 6) 近藤有宣（1977）児童舞踊七十年史、p.46、全日本児童舞踊協会、東京。
- 7) 邦正美（1934）舞踊藝術の本質、學士會月報 558：32。
- 8) 同上 p.33。
- 9) 松本千代栄（1999）シンポジウム 三浦ヒロ・戸倉ハルとその時代、舞踊學 22：87。
- 10) 同上 p.87。
- 11) 三浦ヒロ（1936）ダンス指導の目的と其の方法に就いて、體育と競技 15(5)：46。
- 12) 同上 p.47。
- 13) 同上 p.48。
- 14) 宮畑虎彦（1967）五十年の恩顧—戸倉先生の思い出—、女子体育 10(1)：44。
- 15) 村山茂代（2000）明治期ダンスの史的研究—大正2年学校体操教授要目成立に至るダンスの導入と展開—、p.39-80、不味堂出版、東京。
- 16) 村山茂代（2005）澁井二夫研究—体育ダンスの導入と普及—、日本女子体育大学紀要 33：37-44。
- 17) 村山茂代（2008）ダンスをめぐる散策、p.73-76、不味堂出版、東京。
- 18) 前掲 15) p.122-138。
- 19) 村山茂代（2004）二階堂トクヨとダンス—ダンスの研究と指導について—、日本女子体育大学紀要 34：49-58。
- 20) 戸倉ハル（1936）改正學校体操教授要目に表はれた唱歌遊戯及行進遊戯について、女子体育 1(6)：6。
- 21) 戸倉ハル（1928）童謡遊戯について、幼児の教育 28(1)：47。
- 22) 土川五郎（1919）再び律動遊戯について、幼児の教育 19(1)：16。
- 23) 名須川知子（2004）唱歌遊戯作品における身体表現の変

- 遷 風間書房、東京、
- 24) 二階堂トクヨの書簡 ロンドンより広島市 清寿殿、  
大正3年3月記。
- 25) 2001年5月12日 日本体育学会体育史分科会で山本徳  
郎(国士舘大学)発表の「三浦ヒロの戦間期の思い出」の  
資料, p.16.
- 26) 吉田清(1968) 戸倉さん! あなたはまだ生きている, 女  
子体育 10(1): 40.

#### 参考文献

- ・寺崎謙太郎(1923) 教育的體育ダンスと其指導法, 章華社,  
東京。
- ・井上一夫(1970) 学校体育制度史 増補版, 大修館, 東京。
- ・大沼覚子(2007) 土川五郎における「遊戯」論の展開とそ

- の歴史的意義, 幼児教育史研究 2: 15-30.
- ・兼任教員 昭和16年4月20日現在『青紙赤紙 教員調』  
学校法人二階堂学園所蔵。
  - ・兼任教員 昭和3年5月8日現在『青紙赤紙 教員調』  
学校法人二階堂学園所蔵。
  - ・教員解職ニ關スル件 昭和6年5月15日現在『教員  
様式』学校法人二階堂学園所蔵。

(2019年9月10日受付)  
(2019年12月12日受理)